

西之島の火山活動解説資料（平成 26 年 11 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

6 月 11 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴火活動の状況（図 3～4）

14 日に独立行政法人産業技術総合研究所が実施した上空からの観測によると、顕著な火砕丘が成長し、その頂部には明瞭なすり鉢状の火口（確認された火口は 1 箇所のみ）が形成されていました。火口では間欠的に火山灰を含む灰褐色の噴煙とともに溶岩片を噴出するストロンボリ式噴火が発生していました（図 3）。また、溶岩流は火口から北側に流下していました。先端は複数に分岐して北西から北東の海岸に達し、海水に接した場所では白煙を上げていました（図 4）。

変色水は、確認されませんでした。

東京大学地震研究所が、噴火活動により新たに形成された部分の面積、噴出量、噴出率について 11 月 9 日までの状況をまとめたところ、面積は約 2 km²、噴出量は 8000 ± 1000 万 m³ で噴出率は 10 月よりやや低下したものの、20 万 m³/day を超える水準で、活発な状況が続いています。

・空振の発生状況

東京大学地震研究所が父島に設置している空振計の観測結果によると、11 月 13 日から、西之島が連続的に噴火し活動が活発化していることを示す空振データが観測されています。小笠原村役場によると父島島内で鳴動が聞こえ、空振が感じられているとの報告もあるとのこと。

上記の他に海上自衛隊等の観測により、噴火及び溶岩流の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 12 月分）は平成 27 年 1 月 13 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上自衛隊及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

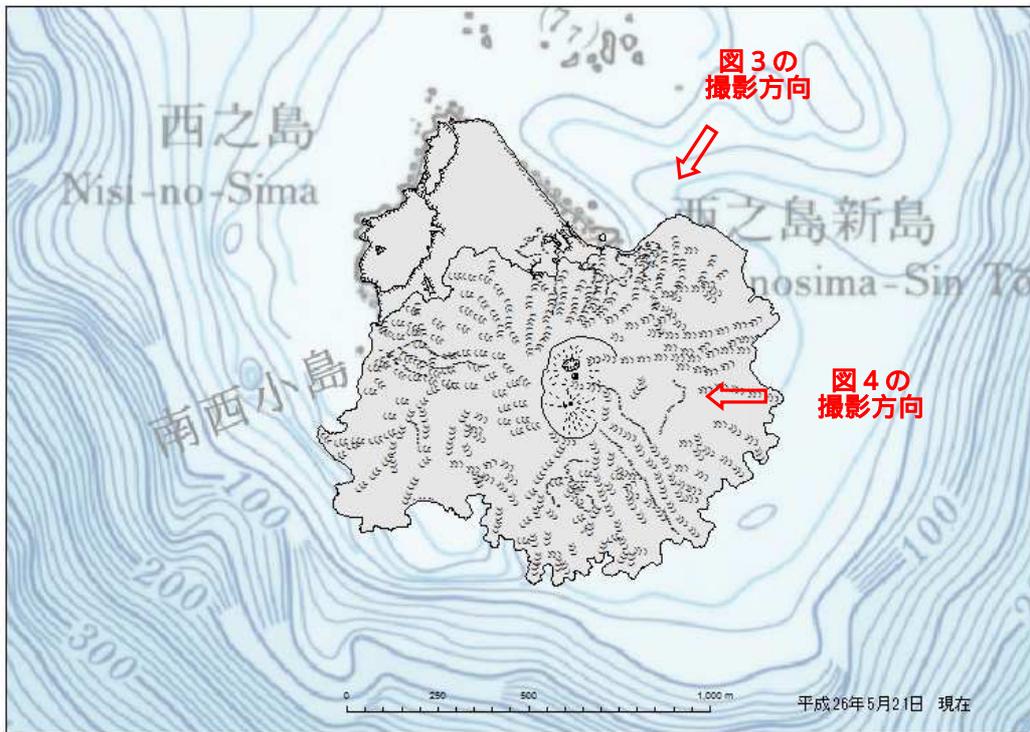


図2 西之島 主な撮影方向
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島 火口の状況（11月14日12時49分読売新聞社機から撮影・産業技術総合研究所提供）
火口では間欠的に火山灰を含む灰褐色の噴煙とともに溶岩片を噴出するストロンボリ式噴火が発生していました。



図4 西之島 活動状況（11月14日11時04分中日新聞社機から撮影・産業技術総合研究所提供）
確認された火口は1箇所のみ。変色水域は確認されませんでした。